

「データ分析チーム」設置によるデータ活用分野の取組強化について

株式会社七十七銀行（頭取 小林 英文）は、データ活用分野の取組強化に向けて、2022年4月より国立大学法人東北大学大学院経済学研究科との共同研究（注）に派遣した行員を中心に、デジタル戦略部内に「データ分析チーム」を設置しましたのでお知らせいたします。

当行は、お客さまに対してより付加価値の高いサービスを提供してため、今後もデータ活用およびAI等のデジタルテクノロジーの活用を通じた銀行業務の高度化に積極的に取り組んでまいります。

注. 2022年4月8日付ニュースリリース「[七十七銀行と東北大学におけるデジタル人材育成に向けた共同研究の実施について](#)」をご参照ください。

記

1. 「データ分析チーム」について

（1）設置の目的

収集・分析したデータをもとに施策立案・実行の意思決定を行う「データドリブン」の考え方を当行の文化とし、施策実施に際しての課題の明確化および解決に資することで、お客さまにより付加価値の高いサービスを提供していくことを目的とします。

（2）設置日

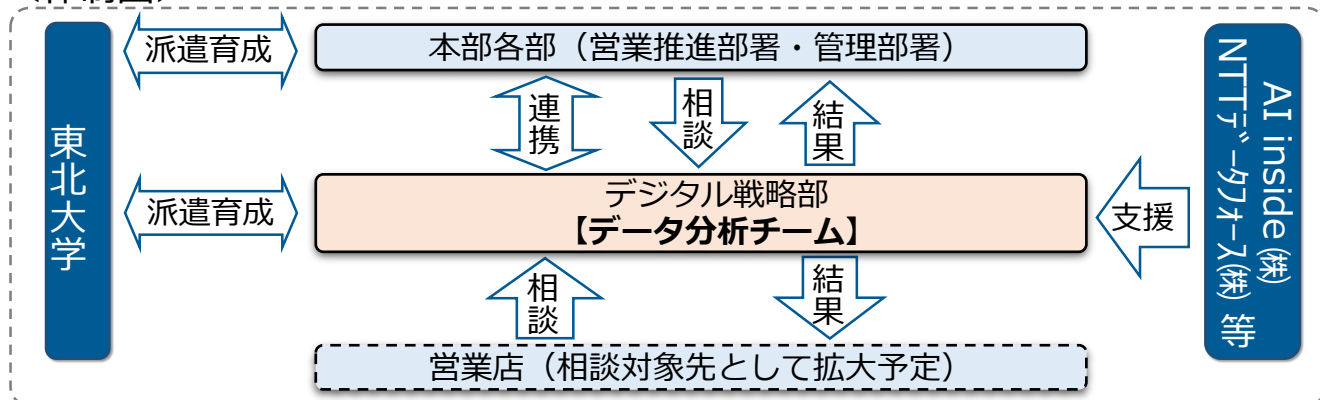
2022年11月7日

（3）体制

本部各部の課題や要望を集約し、データ分析に関するノウハウを迅速かつ継続的に組織全体へ広めるために、複数の担当者によるチーム体制とします。

また、AI inside(株)を始めとした外部連携先の知見を活用し、本部各部の幅広いニーズに対応していきます。

<体制図>



- 1 -

(4) 役割

行内の「業務効率化」、「リスク管理強化」および「営業推進強化」を目的に以下の枠組みによりデータ分析案件の発掘・分析を実施します。

なお、行内のデータ分析を通じて得た知見を活かし、グループ会社や銀行外に対してもデータ活用の幅を広げていきます。

枠組み	内容
相談型分析	本部各部において、取扱うデータの所在が不明またはデータ収集・分析を行う体制等が不足しているなどの理由により、データを有効活用できていない業務等について相談受付のうえディスカッションを行い、データ分析を実施する。
提案型分析	データ分析チームがデータ活用研究や外部支援機関のノウハウ等を転用することにより、データ分析チームの仮説に基づく課題の洗い出しおよび解決に資するデータ分析を行い、本部各部あてにデータ活用策を提案する。
A I 活用領域拡大	A I 活用領域拡大に向けて実施したワークショップにおいて相談された案件（約40件）に対して、A I 内製化サービス等を活用したA I モデル構築による課題解決を行う。

2. データ活用にかかる人材育成

東北大学が2022年10月より開校した「データサイエンスカレッジ」に、本部各部より3名の行員を派遣いたしました。今後も、データ活用人材の育成に積極的に取り組んでまいります。

以上

(参 考)

◆「東北大学データサイエンスカレッジ」について

当行と国立大学法人東北大学大学院経済学研究科によるカリキュラムの共同研究を経て、2022年10月より開校となりました（校長：東北大学大学院経済学研究科／松田安昌教授）。

カリキュラムは、座学によりデータサイエンスの基礎・専門知識を習得する「オンデマンドコース」と実習形式のデータ分析により課題発見・解決の実践的スキルを習得する「実践トレーニングコース」の2つから人材育成の目的に合わせて選択が可能です。

詳細は、以下のURL（東北大学データサイエンスカレッジ公式HP）をご参照ください。

<https://dscollege.econ.tohoku.ac.jp/>

<カリキュラムの特徴>

